



Title	WHO ニュース 11月/12月/1月
Author(s)	
Citation	目で見るWHO. 2021, 76, p. 28-33
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86489
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

11月

November

若者とデジタルヘルス：より良い共存と健康のデザインのために

「Youth-centred digital health interventions」はWHO、HRP、ユネスコ、ユニセフ、UNFPAによって開発された新しいガイダンスです。

IHR緊急委員会開催：パンデミック対応への提言

委員会はWHO及び加盟国に対し、基本的な保健サービスを維持しながら、ワクチン調達・供給の計画を行うとともに、国際往来、調査および感染者追跡に関して根拠のある情報に基づき、リスクを評価した一貫性のある対応を求めています。

医薬品の安全性監視を強化する

WHOは、各国が医薬品安全性監視の政策を策定するのを支援し、情報共有のための国際医薬品モニタリングプログラムを通じて医薬品の安全性を推進しています。

WHO：小島嶼開発途上国の気候変動と健康に関する状況を公表

小島嶼開発途上国は、気候変動に対して最も脆弱となっています。多くの島嶼国は、野心的な排出削減目標、適応行動、気候変動に強い医療システムの開発を通じて気候変動への対応をリードしています。

WHO：COVID-19治療薬とワクチンの評価と安全性に関する共同声明発表

治療薬とワクチンは、医薬品規制当局が製品のベネフィットがリスクに優るという結論を下すことができる、確固とした科学的成績に基づく承認申請である場合にのみ迅速に承認できると述べています。

顧みられない熱帯病とワンヘルス：薬剤耐性への対応

世界抗菌薬啓発週間（11月18日～24日）において、国連食糧農業機関（FAO）、国際獣疫事務局（OIE）およびWHOは、焦点を「抗生物質」から「抗菌薬」に変更することを決定しました。

気候変動と健康に関するCOP26基調メッセージ

私たちは温度上昇を1.5度以内に抑えるべく、早急に行動を広げていかねばなりません。WHOやウエルカムトラストなど関係機関の寄稿により英国政府が作成したメッセージが発表されました。

WHOとユニセフ：はしかとポリオの流行を警告

WHOとユニセフは、COVID-19のために予防接種中断に追い込まれている麻疹やポリオの流行を回避するための緊急の行動を求める要請を行いました。

第73回世界保健総会開幕

テドロス事務局長は、COVID-19の教訓を踏まえ、グローバルなリーダーシップの再考と「協力の新時代を築く」が必要であると挨拶を行いました。

パンデミックなど混乱時における予防接種活動の指針

WHOはCOVID-19、自然災害、人道的緊急事態等の深刻な破壊的状況での予防接種サービスの提供または再開に関して各国を支援するための指針を発表しました。

WHO：トップエコノミストと健康専門家による会議体を設立

「すべての人々に健康を」という概念を中心と置いた新しい会議体(The Council on the Economics of Health For All)の設立を発表しました。

世界糖尿病デー 2020：「The Global Diabetes Compact」発表

現在の糖尿病患者数は1980年と比べて4倍となっており、COVID-19で重症化、死亡するリスクが高いだけでなく、基本的サービスの中断によって治療を受けることが困難になっています。

世界保健総会：2021年を「国際医療従事者年」に決定

今回のパンデミックで何百万人もの医療従事者が献身的な犠牲を払ってきたことを評価し、2021年を国際医療従事者年とすることが決定されました。

世界保健総会：顧みられない熱帯病のロードマップを承認

第73回世界保健総会において、顧みられない熱帯病（NTD）の2021から30年までの新しいロードマップが承認されました。

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



2019年のほしか、過去最大に
2019年の世界の麻疹症例は約87万人と、過去23年間で最大数になりました。2016年より50%近く増加し、2019年だけで推定207,500人の命を奪っています。

世界保健総会 (委員会B)：髄膜炎とてんかんに関する決議
加盟各国は髄膜炎とてんかん対策に関する二つ決議の採択を求めました。

COVAXへの寄付総額51億ドルに
欧州委員会やビル & メリンダゲイツ財団等は、ワクチン供給の柱であるCOVAXに3億6000万米ドルの拠出を約束し、寄付総額は51億ドルを超えました。

子宮頸がんのない未来へ (WHOグローバル戦略)
子宮頸がん根絶のためのワクチン接種、スクリーニング、治療という3つの対策がすべて成功すると、2050年までにこの病気の発生を40%以上減らすことができ、500万人の死亡を減らすことができます。

緊急時使用リストにポリオワクチン登録
WHOは、緊急時使用リスト (EUL) にポリオワクチンを登録しました。

WHO：支援技術能力評価

(ATA-C) ツールを公開
WHOは、支援技術の資金調達、規制、調達、提供を行う各国の能力を評価するためのツールを開発しました。

トランス脂肪酸除去の認証プログラム
トランス脂肪酸摂取量の増加は、冠動脈性心臓病の発症と死亡率に関連します。

人権に関するビデオシリーズ「Your Right To A Better World」を公開
WHOとHRPは、国連人権高等弁務官事務所やオックスフォード人権ハブと協力し、ドキュメンタリービデオ「Right To A Better World」を制作しました。

小児のHIVと結核：診断と医薬品の普及を加速
2019年には、95,000人の子どもがエイズ関連で死亡しました。HIVとともに生きる85万人の子どもたちは治療を受けておらず、その65%は5～14歳でした。

薬剤耐性に関する新しい『ワンヘルス・グローバル・リーダーグループ』立上げ
WHOは、国連食糧農業機関 (FAO)、国際獣疫事務局 (OIE) と共に、薬剤耐性に関する新しい『OneHealthグローバルリー

ダーグループ』を立ち上げました。

報告書『世界の衛生状態』：健康、環境、経済そして社会のために衛生の変革を
安全な衛生の広い普及を実現するための統治、資金調達、能力開発、データと情報、イノベーションというSDG6のテーマに沿った野心的な進路を示しています。

WHO：COVID-19治療にレムデシビルを積極的に推奨せず
WHOは、レムデシビルがCOVID-19患者の救命および他の指標を改善するという証拠がないため、疾患の重症度に関係なく、入院患者におけるレムデシビルの使用に対して条件付き勧告を発行しました。

超多剤耐性菌増加に脅かされる子どもたち
複数の抗生物質に耐性のある細菌が増加しています。医療資源の乏しい環境に住む子どもたちは、より大きなリスクに直面しています。

身体活動が健康をもたらす：新しいガイドライン
成人の4人に1人、青年の5人に4人は身体活動が不足しています。これは医療に540億ドル、生産性の損失にさらに140億ドルをもたらすと推定されています。

11月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・リハビリテーション、
- ・ヒトパピローマウイルス (HPV) と子宮頸がん、
- ・多剤耐性淋菌感染症 (新設)、
- ・リウマチ性心疾患 (新設)、
- ・スナノミ症 (新設)

12月

December

世界の看護2020 (日本語版) 発行

国立国際医療研究センター国際医療協力局 (NCGM) から、『世界の看護2020』日本語版が発行されました。

世界マラリア報告書2020: マラリア撲滅行動の再活性化を

マラリア対策は、特にアフリカの高負荷国で停滞しています。COVID-19は闘いをさらに後退させると予想されています。

世界エイズデー 2020: 連帯と復元力

2019年には、69万人がHIV関連の原因で死亡し、170万人が新たに感染し、新しい感染の3分の2近く (62%) がパートナー間で発生しました。HIV医療サービス拡大の進展は、COVID-19パンデミックの前にすでに行き詰っていました。

先天性欠損症サーベイランス改善のツール

毎年295,000人の新生児が、先天性異常により生後28日間に死亡しています。

コロナワクチンの公平な分配と必要資金

COVID-19ワクチンが低中所得国 (LLMIC) にも公平に分配されるにはまだ282億ドルの資金の不足があります。

WHO: 結核スクリーニングガイドランスの更新

毎年300万人近くの結核患者が診断も届け出もされていません。新ガイドランスは、リスクのある人々のスクリーニングへの新しいアプローチを示しています。

戦略レポート: 民間医療サービス部門との協働でSDG s 達成へ

不可欠な医療サービスの提供に民間部門と協働するという決議が、第63回世界保健総会 (WHA) で採択されました。

農村などにおける医療従事者の維持

農村部や過疎地での医療従事者を増やすというグローバルポリシーを評価する系統的なレビューが行われました。

若者の健康と開発の課題に助言する青少年評議会を立ち上げ

COVID-19パンデミックによって、若者の声を聴くことはこれまでになく重要になっています。WHOは、若者に影響を与える健康と開発の課題について助言するための青少年評議会を立ち上げました。

UHCデーと世界医療費報告書

12月12日は世界UHCデーです。COVID-19は多くの国で不可欠な医療サービスの提供を混乱させ、プライマリケアと公衆衛生に対する過去数十年の過小な投資の影響を明らかにしました。

ランセット: 健康と気候変動

カウントダウン2020年報告書

気候変動は脆弱な人々の健康を危険にさらしています。12月12日は2015年のパリ協定から5周年となり、各国が国別の公約を見直すタイミングです。

世界の死因と障害2000-2019

2019年には世界の死因トップ10のうち非感染性疾患が7つを占めています。2000年にトップ10に入っていた病気のうち結核は7位から13位に、HIV/AIDSも8位から19位に下がっています。

水道サービスのない医療施設に18億人が依存

約18億人が、基本的な水道サービスのない医療施設に依存しているため、COVID-19やその他の病気のリスクが高まっていると警告しています。

WHOチェックリスト: 学校再開のための38のアクション

世界の学童の5人に1人、3億2000万人の教室が閉鎖されています。学校を安全に再開するために必要な意思決定をサポートすることを目的としています。

WHO、IFRCが救急医療チームに関する覚書に署名

WHOと国際赤十字赤新月社連盟 (IFRC) は人道的危機の際の緊急医療および医療サービスの提供を強化するための新しい協力関係を開始しました。

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



インフォデミック防止のために行動を

私たちが新しいパンデミックに関する知識とデータを広く広めることができたソーシャルメディアプラットフォームは、虚偽や歪曲の温床でもあります。

健康的に歳を重ねる10年：国連の新しいイニシアチブ

国連総会は14日、2021-2030年を、「健康的に歳を重ねる10年」と宣言しました。

世界の青年組織ビッグ6がCOVID-19対応へ動員開始

COVID-19に立ち向かおうとする若者の主導を促し、地域社会のプログラムに投資・拡大するという、画期的でグローバルな規模での若者の動員がWHOと共同で開始されました。

WHOの変革：2020進捗報告書

パンデミックはWHOの変革にとって重要な試金石でした。WHOにはまだ歩むべき長い道のりがあり、やるべきことがたくさんあることを示しています。

WHO：分娩ケアガイドを発表

妊産婦死亡の3分の1以上、死産の2分の1、新生児死亡の4分の1は、陣痛時と出産時の合併症が原因です。このガイドは、出産時の女性と医療提供者との関係性を強め、妊産婦の経験と分娩を改善します。

結核サービスの継続性確保に向けて

結核サービスを含めて確実に基本医療を維持しつつ、COVID-19への効果的かつ迅速に対応する必要があります。WHOグローバル結核プログラムは、情報ノート (information note) を作成しました。

たばこを止めるべき100以上の理由

たばこをやめた20分後、心拍数が低下し、12時間以内に、血中一酸化炭素レベルは正常になり、2～12週間以内に、血液循環が改善し、肺機能が向上します。1～9か月以内に、咳と息切れが減少します。

COVAX：ワクチン供給計画を20億回分に倍増

COVAXは複数のワクチン供給量を20億回分に倍増すると発表しました。高所得国と低所得国の両方が同時にワクチンの調達ができるようにするためのものです。

100人超の看護師・助産師を表彰

WHO、国際人口基金、Nursing Nowなどは、『看護師と助産師の年』の締めくくりを記念して、卓越した100人以上の看護師・助産師を発表しました。

WHO：『ヘルシー・エイジングの10年』に関するレポート発行

世界の60歳以上の少なくとも14%以上、1億4200万人以上が、日々の基本的な生活水準に達していません。

COVID-19時代のリスク評価運用ツール

人間・動物・環境の境界領域における健康脅威に対処するには、OneHealthアプローチが必要です。FAO-OIE-WHOの三機関は人獣共通感染症ガイドに関連するリスク評価運用ツール (JRA OT) の開発と実用化を率いてきました。

HIV最適薬物治療法の乳幼児への拡大に向けた共同声明

2019年には、推定95,000人の子供がエイズに関連して亡くなっています。WHOは、2018年以降すべての乳児と子供にドルテグラビル (DTG) をベースとしたHIV治療を推奨しています。

COVID-19グローバル・リスク・コミュニケーションと地域社会の巻き込み戦略 (2020.12 – 2021.5)

感染の連鎖を断ち切り、COVID-19パンデミックの影響を緩和する上で、リスクコミュニケーションと地域社会の参画を組み合わせた役割が高まっています。

「西太平洋地域における食品マーケティングの有害な影響から子どもたちを守るための地域の行動枠組み」(日本語版)

国立健康・栄養研究所から、上記の日本語版が発行されました。

12月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・HIV/エイズ、 ・マラリア、HIV薬物耐性、 ・子ども：健康への新たな脅威、 ・身体活動、 ・先天性異常、 ・障害と健康、 ・死亡原因トップ10

1月

January

2021年、健康の10の課題

パンデミックによって過去20年間に苦勞して獲得した世界的な健康の進歩が後退する危機にあります。WHOは、各国がパンデミックやその他の緊急事態への備えを強化するのを支援するよう努めます。

国連：12月27日を国際エビデミック対策デーに

国連は2020年12月27日に、フランスの生物学者、ルイ・パスツールの誕生日(12月27日)を国際エビデミック対策デーとして、エビデミック(感染症の流行)の予防、準備、および協力・協働の重要性を提唱する決議を行いました。

模索したCOVID-19対応：WHOが総括

WHOは、2020年のCOVID-19の対応活動の総括を発表しました。

WHO：ワクチンの緊急使用リストを発表

WHOは、ファイザーなどが開発した新型コロナウイルスのワクチンを緊急使用リスト(EUL)に加えたことを発表しました。

ユニセフ、WHOなどエボラワクチン備蓄の常備体制を発表

WHO、ユニセフ、国際赤十字赤新月社連盟(IFRC)および国境なき医師団(MSF)の国際4機関は、世界的なエボラワクチンの常備体制を発表しました。ワクチンは

スイスに保管されて、要請を受けてから48時間以内に出荷されます。

COVID-19ウイルス変異体の研究を強化

ウイルスが広まるほど変異することが多くなり、より多くの変異体が出現することになります。新しい変異体を特定するための重要なゲノムシーケンスは、現在一部は一部の国から得られたものであり、地理的範囲を拡大していくことがウイルスの変異を理解する上で重要です。

公共施設では健康に良い食事の提供を

不健全な食事によって年間800万人が死亡していますが、学校、保育所、病院などの公的機関で健康に良い食事を提供することによって防ぐことができます。ナトリウムと塩、砂糖と脂肪、特にトランス脂肪の大量摂取、および全粒穀物、豆類、野菜、果物の摂取不足による病気と死亡を減らすことを目的としています。

WHO、フランスとのパートナーシップ強化

12月7日のフランス政府とWHOの会議で、フランスが支援する「WHOアカデミー」の次のステップが協議されたほか、国際保健規則(IHR)の役割、ACTアクセラレーター、UHCなどが議論されました。

COVID-19に関する緊急委員

会が開催

国際保健規則(IHR)による第6回緊急委員会がビデオ会議形式で開催されました。事務局長はCOVID-19パンデミックが引き続きPHEIC(国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態)と判断し、加盟国へ暫定的勧告として出しました。

WHO独立委員会がWHOと中国の初期対応を批判

今回のパンデミック対応を調査するニュージーランドのクラーク元首相らで構成される独立委員会は、中国政府が感染拡大阻止に向けてより強力な措置を講じることが可能だったと指摘する第2回進捗報告書を発表しました。また、同報告書はWHOが1月末まで緊急事態宣言を發布しなかったことも批判しています。

2021年の世界保健デーのテーマは『健康格差』

テドロス事務局長は第148回執行理事会の開会挨拶で、ワクチンの公平な分配に関する懸念を表明した後、今年の世界保健デーのテーマを『健康格差』とすることを発表しました。

国際保健規則の機能に関するレビュー委員会委員長声明

第148回理事会において、国際保健規則(IHR)の機能に関するレビュー委員会の委員長が声明を出しました。最終報告書は5月の世界保健総会に提出されます。

注)本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



COVAXが最初のワクチン供給計画を発表

COVAXは、ファイザー BioNTech社のワクチンを最大4,000万回分まで購入する事前購入契約を締結したと発表しました。

非常に虚弱な高齢者へのワクチン推奨に変更なし

GACVS COVID-19ワクチン安全小委員会は、虚弱な高齢者がファイザー BioNTech のワクチンを投与された後に死亡した事例に関する情報とデータを検討した結果、このワクチンの安全性に関する推奨事項に変更ないと結論しました。

テドロス事務局長、バイデン大統領の脱退撤回を歓迎

WHOは米国がファミリーの一員であり続けるだけでなく、パンデミックを終わらせ、世界的に直面する多くの健康問題に対処するために、WHO、その加盟国、および多国間システムと建設的に協力するというバイデン大統領のコミットメントを歓迎しました。

WHO：超多剤耐性結核の定義を改訂

2020年10月27-29日に開催された超多剤耐性結核に関する専門家会議で、超多剤耐性結核を新しく定義しました。

COVID-19感染者との接触追跡の重要性に関する報告書

WHOは、従来からの実践に加えて緊急時の実践として接触者追跡の緊急実施、スケールアップ、維持、強化に必要な措置を検討しました。

COVID-19で数十億人が栄養失調の危機に

COVID-19以前から、アジア太平洋地域の19億人の人々が健全な食生活を送ることができず、さらにパンデミックのために果物、野菜、乳製品の価格が上昇したため、貧困層が健全な食生活を送ることはほとんど不可能になっています。

WHOとIDIAが健康イノベーションで協働

WHOと国際開発イノベーションアライアンス(IDIA)は、健康イノベーションの拡大を支援する戦略的協力協定に署名しました。

女性のHIV予防の新しい選択肢：ダピリン膣リング

WHOは、HIV感染のリスクが高い女性のための追加の予防選択肢としてダピリン膣リング(DPV-VR)を推奨することとしました。

顧みられない熱帯病(NTDs):2030ロードマップ

WHOは、「顧みられない熱帯病(NTDs)の終焉：2021～2030ロードマップ」を発表します。このロードマップは、持続可能な開発目標(SDGs)に沿った横断的な目標を掲げています

C型肝炎治療：ジェネリック医薬品が成功を支える

多くの低・中所得国では、検査・治療を受ける人々が増加したことで、C型肝炎の疾病負担が減少しました。安価なジェネリック医薬品であるソフォスブビルとダクラタスビルの12週間の治療コースで、患者1人当たり60米ドル相当という低価格を実現することができるようになりました。

世界ハンセン病デー・治療以上に私たちに必要なもの

1月30日の世界ハンセン病デーに際して、笹川陽平WHOハンセン病親善大使は、差別や偏見をなくするために私たちの考え方を変えなければならない、というメッセージを発信しました。

1月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・思春期および若年成人の健康(タイトル変更)